

# 英国ムスリム若年者における宗教関連行動とパンデミック対処行動

The Religious Behaviors and Response to the Pandemic among Younger Muslims in UK

小島 宏 (早稲田大学) Hiroshi  
KOJIMA, Waseda University  
kojima@waseda.jp

本報告は 2021 年 11 月に英国で日本リサーチセンターを通じて実施した小規模ウェブ調査「コロナ禍における英国ムスリムの宗教実践 (“Survey on Islamic Practices during COVID-19 Pandemic”）」の個票データ (N=328) を用いたロジット分析により、18~39 歳のムスリム男女における宗教関連行動と COVID-19 パンデミック対処行動との関連を探ることを目的とする。予備的分析では目的変数として調査時点までワクチン接種の有無、COVID-19 検査の有無、世帯内感染者の有無を用い、関連要因変数としては宗教的・民籍の手続きによる有配偶、白人ムスリム、アジア系ムスリム、隣人のムスリム比率、中等教育学友のムスリム比率、18 歳までのマドラッサ (補習クラス) 通学経験、モスクでの頻繁な礼拝、友人のムスリム比率、ムスリム友人のインターネット経由知遇比率、宗教目的のインターネット利用を投入し、人口学的、社会経済的、地域的な統制 (ダミー) 変数を投入した。また、世帯内感染者ありを目的変数とするモデルについては接種回数と検査回数も追加的な関連要因 (ダミー) 変数として投入した。横断面データのため、因果関係の方向が必ずしも明らかでないが、以下のような関連が示された。

まず、ワクチン接種なしに対してはマドラッサ通学なしが負の関連をもち、友人の少数ムスリムが正の関連もっていた。すなわち、マドラッサ通学経験はワクチン接種と負の関連をもち、友人の少数ムスリムは正の関連をもつ。また、検査なしに対しては宗教関連変数で有意な関連をもつものがなかった。しかし、世帯内感染者ありに対しては宗教目的のためのインターネット利用が正の関連をもち、医学情報獲得のためのインターネット利用の負の関連と対照的であった。また、ワクチン接種回数と検査回数を追加投入したモデルでは宗教関連要因の効果がなくなった。

そこで、男女別の分析を行ったところ、男性ではワクチン接種なしには近隣住民と中等教育学友の多数がムスリムであること、友人の約半数がムスリムであることが負の関連をもち、いずれもがワクチン接種に正の効果をもつ可能性が示唆された。検査なしと世帯内感染者ありに対しては宗教関連変数で有意な関連をもつものがなかった。しかし、追加変数を投入すると後者に対して 5~11 歳のマドラッサ通学が負の関連をもつ。女性では検査なしに対して宗派なしのムスリムが負の関連をもつことが見出された。したがって、男女別にみると宗教関連変数が感染予防効果をもつ可能性が示唆される。なお、報告の際には比較可能なモデルによる分析結果を示す予定である。

(謝辞) 本報告で個票を分析したウェブ調査は科研費 (20K00079) により日本リサーチセンターに委託したものである。作成した調査票を監修してくださったイマーム Islam Uddin 博士に謝意を表する次第である。